

[様式 9 - 1]

福祉サービス等第三者評価結果

総合評価

| | | | |
|-------|------------------------------|------|-----|
| 受診施設名 | くわの実保育園 | 施設種別 | 保育所 |
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 きょうと福祉ネットワーク「一期一会」 | | |

2012年7月23日

総 評

くわの実保育園は、「こどもらに生きる力とあふれる想いを」という理念のもと、平成15年に開設されました。その前身は、子育てと仕事の両立を目的として、安心してこどもを預けるところが欲しいという願いから設立された共同保育園です。その想いは、認可された現在でも引き継がれ、1家族が1つの役割を持ち、保護者と職員がともに作り上げる保育が実践されていました。

毎年の事業計画（保育課程）は、理念・基本方針に基づき策定され、その計画に基づき各年児の目標や担任の目標が作成されていました。その計画は、年3回振り返りで見直しが行われ、進捗状況により適切に修正が加えられていました。その評価は、保育全体を行うだけではなく、例えば、担任が子ども1人1人の姿を思い返し、子どもに焦点をあてて計画を評価するなど、多角的に実行されていました。こうした取り組みは、保育の質を向上させるためのものであり、高く評価される事項です。

実際の保育場面では、職員全体で1人1人の子どもたちを育てるという共通認識により、職員同士が連携して保育が実践されていました。毎日の登園時には、家庭での子どもたちの様子を食事の状況を含めて把握し、日常的に子どもの情報を共有していました。また、子どもへの関わり方について、上手く関わったこと、関われなかったことを話し合い、適切な関わり方を検討していました。こうした日々の積み重ねは、職員が日常的に子どもを気づかうことや、少しの変化を感じ取れる感覚を身につけることに繋がると感じました。

また、生きる源である食事は、「乳幼児期に得た味覚は、これから生きていく過程に大きな影響を与えることから、食事に必要な情報を給食日より配布する。」「野菜など子どもが苦手とする食材については、家庭でも食べやすくするコツを伝える。」「保護者が迎えに来る時間帯に試食会を実施して、そのレシピを配る。」など、給食担当の職員と保育士、保護者が協力しながら、必要な配慮がされていました。このように、保護者と保育園が一体となり1人の子どもを育て上げる姿勢は、高く評価されると感じました。

くわの実保育園は、認可保育園となって10年が経過しました。この10年を過ぎた現在を機会として、今までを振り返り、今後の10年の方向性を検討されてはいかがでしょうか。保育所の第三者評価では中長期計画は非該当となっていますが、これまで培ってきた歴史やくわの実保育園が大切にされてきた保育を受け継いでいくためにも必要な事項であろうと感じます。今後も子どもたち1人1人を大切にしたい、質の高い保育実践の持続発展に期待いたします。

| | |
|--------------------------------|---|
| <p>特に良かった点 (※)</p> | <p>I-1-1 (1) 保育の理念、基本方針・目標が確立されている。 「こどもらに生きる力とあふれる想いを」という理念のもと、具体的な基本方針が明文化されています。そして、理念、基本方針に沿って保育目標、事業計画が策定されていました。組織として統一した認識のもと保育が実践されていることは、高く評価されます。</p> <p>III-1-1 (1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。 子どもたち一人ひとりを大切にするという保育が、保育園の統一した認識により実践されていました。子どもたちが安心して過ごせるように、言葉がけなどにも配慮がされていました。</p> <p>IV-1-1 (1) 健康管理・食事 食事は「生きる源である」という考えのもと、「給食たより」の発行やサンプル食の提示と、そのレシピの配布を行うなど、家庭と連携して食事を通じた子どもの体づくりを行っていました。</p> |
| <p>特に改善が 望まれる点 (※)</p> | <p>II-2-3 (3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。 事業計画において、職員研修の方針を明確に示されていましたが、職員一人ひとりに対しての計画の策定は確認できませんでした。職員の中長期的な目標を聞き取り、その目標に向けた研修計画を実施するなど、体系的な研修計画を策定されてはいかがでしょうか。</p> <p>III-2-2 (2) サービス実施の記録が適切に行われている。 入園決定から個人面接まで、基準に沿って進められていました。また、統一した様式によりアセスメントが実施され、年2回の見直しが行われていました。子ども記録等は、扉のある書庫に保管されていますが、記録に関する規程等は確認できませんでした。子どもの状況や活動記録は外部に流出が許されない情報であることから、記録の取り扱いに関する規程の整備が望まれます。</p> <p>IV-3-1 (1) 安全・事故防止 調理場や水回りの衛生管理は日誌等でチェックを行っていましたが、衛生に関するマニュアルは確認できませんでした。食中毒を含めた衛生管理は、マニュアルを作成して職員が統一した見解を持つことが必要であることから、早急なマニュアルの整備が望まれます。</p> |

※それぞれ内容を3点程度に絞って掲載しています。評価項目毎のコメントは「評価結果対比シート」の「自由記述欄」に記載しています。

京都府福祉サービス等第三者評価事業

[様式9-2]

【保育所版】

評価結果対比シート

| | |
|-------|---------------------------------|
| 受診施設名 | 社会福祉法人くわの実つむぎ会 くわの実保育園 |
| 施設種別 | 保育所 |
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 きょうと福祉ネットワーク「一期一会」 |
| 訪問調査日 | 平成24年6月22日 |

保育所評価基準 対比シート

I 福祉サービスの基本方針と組織

| 評価分類 | 評価項目 | 評価細目 | 評価結果 | |
|-----------------------|---|------------------------------------|---|-------|
| | | | 自己評価 | 第三者評価 |
| I-1 保育の理念・基本方針・目標 | I-1-1(1) 保育の理念、基本方針・目標が確立されている。 | ① 保育の理念が明文化されている。 | A | A |
| | | ② 保育の理念に基づく・基本方針・保育目標が明文化されている。 | A | A |
| | I-1-1(2) 保育の理念、基本方針・目標が周知されている。 | ① 保育理念・保育方針・保育目標が職員に周知されている。 | A | A |
| | | ② 保育理念・保育方針・保育目標が利用者等に周知されている。 | B | B |
| I-2 計画の策定 | I-2-1(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。 | ① 中・長期計画が策定されている。(非該当) | 非該当 | 非該当 |
| | | I-2-1(2) 保育の計画が適切に策定されている。 | ① 保育課程が保育理念・保育方針・保育目標に基づき、さらに地域の実態や保護者の意向等を考慮して編成されている。 | A |
| | ② 保育課程と年間指導計画、短期指導計画との整合性が図られている。 | | A | A |
| | ③ 指導計画の評価を定期的に行い、その結果に基づき改定されている。 | | A | A |
| | ④ 保育課程の編成や指導計画の作成が組織的に行われている。 | | A | A |
| | ⑤ 保育課程・指導計画が職員や利用者等に周知されている。 | | B | B |
| I-3 管理者の責任とリーダーシップ | I-3-1(1) 管理者の責任が明確にされている。 | ① 管理者自らの役割と責任を職員に対して表明されている。 | B | B |
| | | ② 遵守すべき法令等を正しく理解するための取り組みを行っている。 | C | B |
| | I-3-1(2) 管理者のリーダーシップが発揮されている。 | ① 質の向上に意欲を持ちその取り組みに指導力を発揮している。 | B | A |
| | | ② 経営や業務の効率化と改善に向けた取り組みに指導力を発揮している。 | A | A |
| [自由記述欄] | | | | |
| I-1-1(1) | ①②保育の理念・基本方針、それに基づく保育目標が明文化され、ホームページやパンフレットに記載されていた。 | | | |
| I-1-1(2) | ①保育の理念、基本方針、目標は保育課程に記載されるとともに、職員会議等を通じて全職員に周知されていた。 ②理念、方針、目標は年1回実施される懇談会資料やパンフレットに記載しているが、保護者等への周知は不十分な状況であった。 | | | |
| I-2-1(2) | ①保育課程は、保育理念・基本方針をもとに策定されていた。 ②保育課程をもととして、各年児目標、担任目標が作成されていた。また、園児ごとの目標も作成されていた。 ③保育課程は、年3回振り返りがされていた。振り返りは、その都度テーマを決め多角的に評価していた。 ④保育課程や指導計画は、担任会議や部門会議など、会議を通じて吸い上げた職員の意見を反映していた。 ⑤保育課程や指導計画は、会議等で職員への説明が行われていた。保護者等への周知は、不十分な状況であった。 | | | |
| I-3-1(1) | ①園長の権限については、運営規程で明文化されていた。管理者自らの行動を評価する仕組みは確認できなかった。 ②法令順守に関する研修会への参加は確認できたが、必要な法令等のリスト化や職員への周知の状況は確認できなかった。 | | | |
| I-3-1(2) | ①保育の資質向上については、事業計画に具体的な内容を明示して、保育園全体として取り組んでいた。 ②当園が属する亀岡市東部地域の待機児童の把握を行っていた。また、経営状況は、半年ごとに見直しを実施していた。 | | | |

II 組織の運営管理

| 評価分類 | 評価項目 | 評価細目 | 評価結果 | |
|-------------------------------------|---|--|--|-------|
| | | | 自己評価 | 第三者評価 |
| II-1 経営状況の把握 | II-1-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。 | ① 事業経営をとりまく環境が的確に把握されている。 | B | A |
| II-2 人材の確保・養成 | II-2-(1) 人事管理の体制が整備されている。 | ① 必要な人材に関する具体的なプランが確立している。 | B | B |
| | | II-2-(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。 | ① 職員の就業状況や意向を把握し必要があれば改善する仕組みが構築されている。 | B |
| | II-2-(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。 | ② 職員の福利厚生や健康の維持に積極的に取り組んでいる。 | A | A |
| | | ① 職員の教育・研修に関する基本姿勢が明示されている。 | A | A |
| | | ② 個別の職員に対して組織としての教育・研修計画が策定され計画に基づいて具体的な取り組みが行われている。 | B | B |
| | II-2-(4) 実習生の受け入れが適切に行われている。 | ③ 定期的に個別の教育・研修計画の評価・見直しを行っている。 | B | B |
| ① 実習生の受け入れに対する基本的な姿勢を明確にし体制を整備している。 | | A | A | |
| II-3 地域との交流と連携 | II-3-(1) 地域との関係が適切に確保されている。 | ② 実習生の育成について積極的な取り組みを行っている。 | A | A |
| | | ① 利用者と地域とのかかわりを大切にしている。 | A | A |
| | | ② 事業所が有する機能を地域に還元している。 | A | A |
| | II-3-(2) 関係機関との連携が確保されている。 | ③ ボランティア受け入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。 | A | A |
| ① 必要な社会資源を明確にしている。 | | C | B | |
| [自由記述欄] | | | | |
| II-1-(1) | ①行政機関との情報共有や、子育て支援事業を通じて市民ニーズを把握するなど、事業経営を取り巻く状況把握を実施していた。 | | | |
| II-2-(1) | ①有資格者や必要な人材配置は、保育園の状況に合わせて実施されていた。必要な人材の基本姿勢や考え方を明文化した文章等は確認できなかった。 | | | |
| II-2-(2) | ①有給休暇の取得状況をはじめ、職員の就業状況を把握する仕組みがあった。また、職員の相談等を受け付ける体制を確認した。 ②職員の代表と理事者が、年1回話し合いの機会を設けるなど、職員からの相談に対応されていた。 | | | |
| II-2-(3) | ①事業計画において、職員研修の方針を明確に示していた。 ②全体の研修計画は策定されていたが、職員一人ひとりに対しての計画は確認できなかった。 ③研修後の報告書は確認できたが、研修計画に対して評価・分析をする仕組みはなかった。 | | | |
| II-2-(4) | ①②実習生受け入れマニュアルが策定されていた。実習生の受け入れは、保育士の後継者育成という理念を持ち、職員全員がその意義を理解した上で実施されていた。 | | | |
| II-3-(1) | ①地域の自治会に加入し、自治会の会議等にも参加するなど、地域と十分な連携が図れている状況を確認した。 ②未就園児を対象とした事業「わくわく広場」を開催して、園庭を開放するなど、保育園が有する設備を地域に還元していた。 ③ボランティア受け入れに関するマニュアルを整備して、行事を中心に積極的な受け入を行っていた。 | | | |
| II-3-(2) | ①亀岡市内を中心に活用できる社会資源は、職員間で情報共有されていたが、そのリストや資料作成の状況は確認できなかった。 | | | |

Ⅲ 適切な福祉サービスの実施

| 評価分類 | 評価項目 | 評価細目 | 評価結果 | |
|---------------------|--|---|------|-------|
| | | | 自己評価 | 第三者評価 |
| Ⅲ-1 利用者本位の福祉サービス | Ⅲ-1-(1) 利用者を尊重する姿勢が明示されている。 | ① 利用者のプライバシー保護に関する規程・マニュアル等を整備している。 | B | A |
| | Ⅲ-1-(2) 利用者が意見等を述べやすい体制が確保されている。 | ① 苦情解決の仕組みが確立され十分に周知・機能している。 | B | A |
| | | ② 利用者からの意見等に対して迅速に対応している。 | B | A |
| Ⅲ-2 サービスの質の確保 | Ⅲ-2-(1) 質の向上に向けた取り組みが組織的に行われている。 | ① 定期的に第三者評価を受診し、事業内容の改善に活かしている。 | A | A |
| | | ② 定期的に自己評価を行い、その結果と課題を職員間で共有し、改善に向けた取り組みを行っている。 | A | A |
| | Ⅲ-2-(2) サービス実施の記録が適切に行われている。 | ① 入園面接・健康診断など定められた手順に従ってアセスメントを行っている。 | A | A |
| | | ② 利用者に関する記録の管理体制が確立している。 | A | B |
| | | ③ 利用者の状況等に関する情報を職員間で共有化している。 | A | A |
| Ⅲ-3 サービスの開始・継続 | Ⅲ-3-(1) サービス提供の開始が適切に行われている。 | ① 利用希望者に対してサービス選択に必要な情報を提供している。 | A | A |
| | | ② 保育の開始にあたり利用者等に説明し同意を得ている。 | A | A |
| | Ⅲ-3-(2) サービスの継続性に配慮した対応が行われている。 | ① 転園・卒園にあたり保育の継続性に配慮した対応を行っている。 | B | B |
| [自由記述欄] | | | | |
| Ⅲ-1-(1) | ①子どものプライバシー保護に関しては、保育課程において明示され、園全体として子ども本位の保育が実践されていた。 | | | |
| Ⅲ-1-(2) | ①利用者の意見、要望等の相談解決実施要項を整備して、必要な対応を実施していた。 ②保護者から意見等があった場合は、できごと報告書を作成し、迅速に対応していた。また、日常的に保護者から意見を聴くことに心がける状況があった。 | | | |
| Ⅲ-2-(1) | ①定期的に第三者評価を受診して、その改善を図る仕組みを確認した。 ②毎年1回、職員個々によるアンケート方式で評価を行っていた。 | | | |
| Ⅲ-2-(2) | ①入園決定から個人面接まで基準に沿って進められていた。また、統一した様式によりアセスメントが実施され、年2回の見直しが行われていた。 ②子ども記録等は扉のある書庫に保管されていたが、記録に関する規程等は確認できなかった。 ③「今日の動き」という園内の動きが把握できるファイルを備え、職員全体で情報共有している状況を確認した。 | | | |
| Ⅲ-3-(1) | ①ホームページ、パンフレットを作成して、利用者に必要な状況を公開していた。写真を多く使用して、園での様子がわかりやすいように工夫されていた。 ②保育の開始にあたっては、重要事項説明書により十分な説明を行い、同意を得ていた。 | | | |
| Ⅲ-3-(2) | ①保幼小連絡会を通じて、細かく小学校への情報提供が行われていた。転入や転出の際、保護者等へ必要な情報を文書等で説明している状況は確認できなかった。 | | | |

IV-1 子どもの発達援助

| 評価分類 | 評価項目 | 評価細目 | 評価結果 | | |
|------------------|---|--|------|-------|--|
| | | | 自己評価 | 第三者評価 | |
| IV-1 子どもの発達援助 | IV-1-(1)健康管理・食事 | ① 登所時や保育中の子どもの健康管理は、マニュアルなどがあり、子ども一人ひとりの健康状態に応じて実施している | A | A | |
| | | ② 健康診断の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている | A | A | |
| | | ③ 歯科健診の結果について、保護者や職員に伝達し、それを保育に反映させている | A | A | |
| | | ④ 感染症発生時に対応できるマニュアルがあり、発生状況を保護者、全職員に通知している | A | A | |
| | | ⑤ 食事を楽しむことができる工夫をしている | A | A | |
| | | ⑥ 子どもの喫食状況を把握するなどして、献立の作成・調理の工夫に活かしている | A | A | |
| | | ⑦ 子どもの食生活を充実させるために、家庭と連携している | A | A | |
| | | ⑧ アレルギー疾患をもつ子どもに対し、専門医からの指示を得て、適切な対応を行なっている | A | A | |
| | IV-1-(2)保育環境 | ① 子どもが心地よく過ごすことのできる環境を整備している | A | A | |
| | | ② 生活の場に相応しい環境とする取り組みを行なっている | A | A | |
| | IV-1-(3)保育内容 | ① 子ども一人ひとりへの理解を深め、受容しようと努めている | A | A | |
| | | ② 基本的な生活習慣や生理現象に関しては、一人ひとりの子どもの状況に応じて対応している | A | A | |
| | | ③ 子どもが自発的に活動できる環境が整備されている | A | A | |
| | | ④ 身近な自然や社会とかかわれるような取り組みがなされている | A | A | |
| | | ⑤ さまざまな表現活動が自由に体験できるように配慮されている | B | A | |
| | | ⑥ 遊びや生活を通して人間関係が育つよう配慮している | A | A | |
| | | ⑦ 子どもの人権に十分配慮するとともに、文化の違いを認め、互いに尊重する心を育てよう配慮している | A | A | |
| | | ⑧ 性差への先入観による固定的な観念や役割分業意識を植え付けないうよう配慮している | A | A | |
| | | ⑨ 乳児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる | A | A | |
| | | ⑩ 長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮がみられる | A | A | |
| | | ⑪ 障害児保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮が見られる | A | A | |
| | 【自由記述欄】 | | | | |
| | IV-1-(1) | <p>①入園時に保護者から「健康の記録」と「かかりつけの病院(内科、耳鼻科など)」の情報を得ていた。また「健康管理のお知らせ」を配布して、子どもの健康に関する情報を提供していた。</p> <p>②健康診断を事前に受診するにあたり、保護者が疑問に思っていることなどの聞き取り、結果を報告していた。職員には「集団健診報告」において、クラスで回覧を行い情報共有を行っていた。</p> <p>③歯科受診で治療の必要な場合は、保護者に報告されていた。また、治療終了後は、保護者より園に状況報告があり、情報共有が図られていた。</p> <p>④職員、保護者に配布している「感染症予防マニュアル」の中の「健康管理について」に、感染症発生時の対処方法が明記されていた。</p> <p>⑤1歳児から給食の手伝いに参加する機会をもったり、献立当番(4歳児クラス)を決め、各教室に献立の説明に回っていた。また園庭で野菜やお米などを育てており、収穫したものを給食に出すなど、食事を楽しむ工夫がされていた。</p> <p>⑥「年間保育計画」の中に、給食部門の目標を記載しており、園全体で食育が実施されていた。毎日、栄養士をはじめ給食担当の職員が各教室を回り、子どもの喫食状況を確認していた。</p> <p>⑦食事は「生きる源」という考えの下、「給食たより」の発行やサンプル食の提示とそのレシピの配布などを行い、家庭と連携して食事を通じた子どもの体づくりを行っていた。</p> <p>⑧「食物アレルギー対処への協力について」というプリントを配布し、アレルギーを持つ子どもについては、医師の診断をもと対処していた。</p> | | | |
| | IV-1-(2) | <p>①各部屋は清掃等が十分に行われ、清潔感があった。子どもたちが使用する遊具等については、定期的な消毒がされていた。</p> <p>②園庭には実のなる木々が植えられ、自然から季節を学べる環境を整備していた。また、園内のフリースペースには多くの本が置かれており、子どもたちが好きな時に好きな絵本を読むことが出来る環境があった。</p> | | | |
| IV-1-(3) | <p>①②⑧⑨理念に記載されているように、子どもたち一人ひとりを大切に保育が実践されていた。子どもたちが安心して過ごせるように、言葉がけ一つからも配慮されている状況があった。保育士から「まったり関わる」と伺ったが、その言葉の醸し出す雰囲気保育園全体にあった。</p> <p>③④自然とのふれあいができるように園庭に木を植えるなど、自発的な遊びができるように環境整備がされていた。</p> <p>⑤⑥子どもたちが興味を持ったこと(例えば、水たまりで遊ぶなど)は、自由に体験できる保育環境があった。</p> <p>⑦聴覚が不自由な保護者に対して、要約筆記をする人をつけたり、口が読めるようにゆっくり話すなど工夫をしていた。</p> <p>⑩延長保育を利用するなど長時間にわたり保育を受ける子どもたちには、異年齢の子ども同士で遊ぶ時間を作るなど、保育方法を工夫していた。</p> <p>⑪車椅子トイレを完備している。また必要に応じて専門機関と連携していた。</p> | | | | |

IV-2 子育て支援

| 評価分類 | 評価項目 | 評価細目 | 評価結果 | |
|---------------|--|---|------|-------|
| | | | 自己評価 | 第三者評価 |
| IV-2 子育て支援 | IV-2-(1) 入所児童の保護者の育児支援 | ① 一人ひとりの保護者と日常的な情報交換に加え、個別面談などを行っている | A | A |
| | | ② 家庭の状況や保護者との情報交換の内容が必要に応じて記録されている | A | A |
| | | ③ 子どもの発達や育児などについて、懇談会などの話し合いの場に加えて、保護者と共通理解を得るための機会を設けている | A | A |
| | | ④ 虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見に努め、得られた情報が速やかに所長まで届く体制になっている | A | A |
| | | ⑤ 虐待を受けていると疑われる子どもの保護者への対応について、児童相談所などの関係機関に照会、通告を行う体制が整っている | A | A |
| | | ⑥ 子どもの発達記録やケア記録、保育要録など保育に必要な記録が整備され、保育内容(指導計画)や小学校など専門機関との連携に活かされている。 | A | A |
| | IV-2-(2)一時保育 | ① 一時保育は、一人ひとりの子どもの心身の状態を考慮し、通常保育との関連を配慮しながら行っている | | |
| [自由記述欄] | | | | |
| IV-2-(1) | ①保護者との意見交換は、日々の連絡帳や送迎時などを通じて行われていた。また、定期的に個別面談を実施して、情報交換や子育て相談等を行っていた。 ②家庭の状況や保護者との情報交換の記録は、個人票や個人懇談記録に記載され、共有されていた。 ③個人懇談会など、個別に納得するまで話し合う機会を設定していた。 ④⑤虐待対応に関するマニュアルを整備していた。また、子どもの様子を日常から観察し、普段と変化がないか感じ取る仕組みがあった。 ⑥各年齢、各クラスに応じた指導計画を作成し、それに伴う個人ごとの発達記録が整備されていた。保幼小連絡会に出席して、子ども一人ひとりの状況を必要に応じて引き継いでいた。 | | | |
| IV-2-(2) | ①現在、一時保育を実施していないとのことであった。 | | | |

IV-3 安全・事故防止

| 評価分類 | 評価項目 | 評価細目 | 評価結果 | |
|-----------------|---|---|------|-------|
| | | | 自己評価 | 第三者評価 |
| IV-3 安全・事故防止 | (1)安全・事故防止 | ① 調理場、水周りなどの衛生管理は、マニュアルに基づいて適切に実施されている | A | B |
| | | ② 食中毒の発生時に対応できるマニュアルがあり、さらにその対応方法については、全職員にも周知されている | C | C |
| | | ③ 事故防止のためのチェックリスト等があり、事故防止に向けた具体的な取り組みを行っている | B | A |
| | | ④ 事故や災害の発生時に対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている | A | A |
| | | ⑤ 不審者の侵入時などに対応できるマニュアルがあり、全職員に周知されている | A | A |
| [自由記述欄] | | | | |
| IV-3-(1) | ①②調理場や水回りの衛生管理は、日誌等でチェックを行っていたが、衛生に関するマニュアルは確認できなかった。 ③④安全管理マニュアルを整備し、事故防止に関する対応を行っていた。事故が起こった場合は、報告書により分析を行い、改善に努めていた。 ⑤不審者の侵入に関するマニュアルが整備されていた。また、不審者の侵入があった場合を想定して、4月の職員会議でその対応について話し合いがされていた。 | | | |